



かってきました。

栄養指導されているのに老老介護のためまったくいかされていないとか、ほぼ全食がコンビに弁当だとか。いくら理想論を言ってもこれが現実なんですね。ぜひみんなで知恵を絞って対応を考えていきたいと思っています。

歯周病の治療

「ふれあい歯科ごとう」でも歯周病の対処のために来院される方がいます。もちろん、皆さんにとって「歯周病（歯槽のうろち）」という言葉は恐怖の対象ですよ。歯が揺れてきて、最後は抜けてしまうなんて考えただけでも恐ろしい。

実はこの歯周病に対する学問（歯周病学）はとても新しい学問なんです。僕たちが学生時代に教わった教授が初代教授だったくらいです。

この学問の根幹は、「しっかり磨き、歯ぐきを引き締める」ことです。皆さんそうだと思いますが、小学生の頃に歯磨きの仕方を教わったと思います。これは、虫歯対策として実施されているのですが、成人してからはそのまま歯周病対策として行われています。ですから、小学生時代と成人してからのブラッシングの仕方が少し違うんです。

さて、この歯周病の先端治療としては、歯ぐきの手術をしたり、特殊な薬や材料を歯ぐきの中に入れること



によって組織の再生を図るものもあります。まさに先端医療！と思う方もいるかもしれませんが、そこが落とし穴です。

なぜ歯周病になったのかを考えなければ何も変わらないんです。原因が歯ブラシ不足だけならば、治療後「改心」して歯ブラシに励めばいいんです。でも、そんなに単純なものはないので再発してしまいます。

ご存知の方もいるかもしれませんが、歯周病は成人病です。栄養状態や生活習慣、そして噛み合わせなど多くの因子が関与しています。予防を考えるならそれらすべての面から考えるべきなんですよ。

ちなみに、肥満の方が脂肪吸引後焼肉を食べている姿なんて浮かんじやいます。あくまでも原因除去が一番の治療なんですよ。